

ES T 取組み概要

1. 主な取組み紹介
2. 取組み効果
3. 今後の取組み予定

1. 主な取り組み紹介

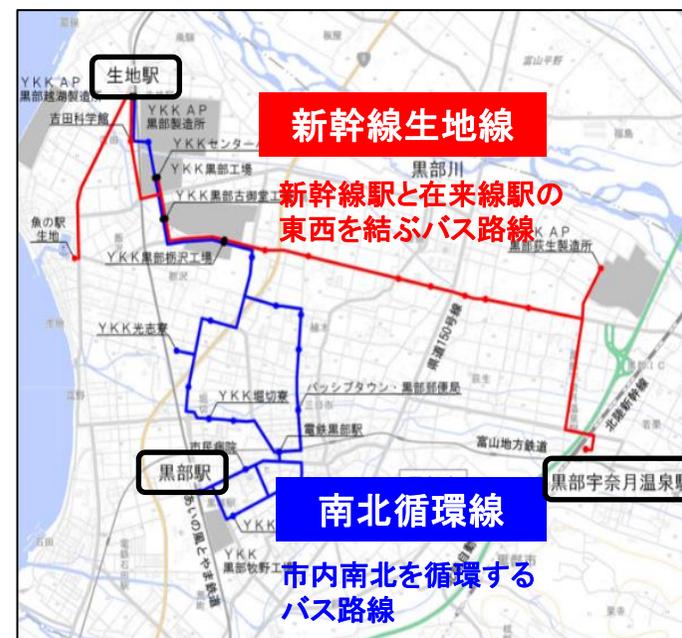
YKK(株)黒部事業所（富山県黒部市）

■ 背景

- 黒部市内に居住する社員（約3,300名）の9割はマイカー通勤で、朝夕の事業所周辺道路の渋滞や駐車場確保などが従来から課題。
- 東日本大震災を契機に本社機能の一部移転を推進し、延べ約230人の社員が首都圏から黒部事業所へ異動。移住した社員やその家族、および国内外からの同事業所への来訪者の市内における移動交通手段確保は早急に解決すべき課題となった。

■ 主な取り組み

- 2015年 3月 北陸新幹線開業
- 4月 新幹線駅発着の社員専用バス運行開始
本社機能の一部を黒部事業所へ移転完了(延べ230名)
- 2016年 6月 社員専用バスを公共路線化(新幹線生地線)し、市民も利用可能な便へ移行
- 11月 社員通勤需要を取り込んだ公共バス交通網モデル「南北循環線の社会実験」を産学官連携で実施
- 2017年 6月 市内居住社員(寮・社宅対象者)約6割がマイカーから公共バス通勤に転換
- 10月 南北循環線を定期路線化し市民も利用可能な便へ移行



地方小都市における社員通勤改革への取り組み開始

① 産官民連携体制づくり



※ 国土交通省 地方創生加速化交付金事業採択

産官民連携による地域交通改善への活動体制づくり

② バス停・ロータリー整備 黒部市と連携し主要工場にバス待合所を整備

黒部古御堂工場(ロータリー整備含む)



黒部荻生製造所



黒部栃沢工場



黒部寮(社有单身寮)



中央小学校前



ちよいのり黒部 パッシブタウン前

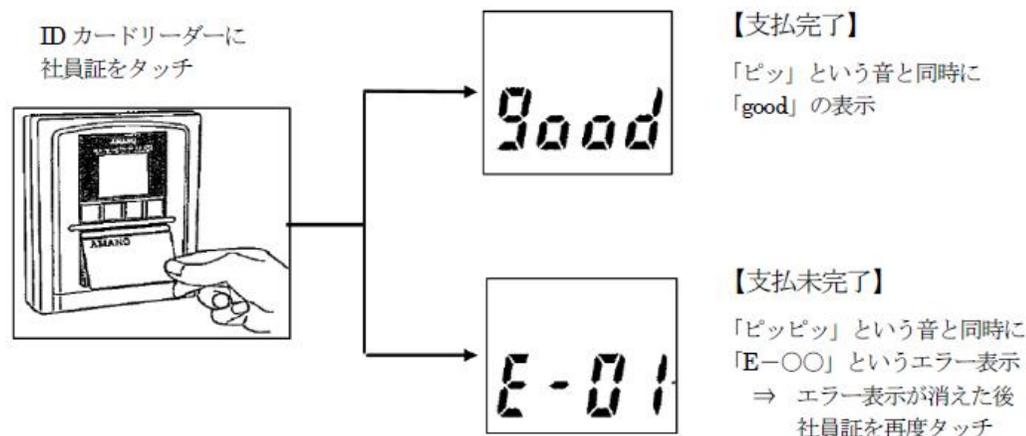


ハード整備と合わせ、公共交通イメージを刷新するデザインを採用

③ 社員証による運賃精算システム

- ・通通勤や業務で利用する際、乗降車時に社員証をIDカードリーダーへあてて清算することで、運賃を支払うことなく乗車が可能（運賃は会社が負担）

2. 社員証による運賃支払い方法



(参考) 新幹線生地線車両



IDカードリーダー



- ・ 利用者のストレスフリーな運賃精算
- ・ 詳細な乗降履歴(便毎、停留所毎)を分析しダイヤ改善に活用

④ マイカー乗入ガイドラインの改定

【通勤自動車社内乗入れ規定】(抜粋)

第3条 自家用車通勤の許可

(1) **交通の便が悪く** 自家用車以外の通勤が困難な者

3. 前項第1号、第2号の条件を欠く者であっても**特段の事情**により、会社は許可する場合がある



2017/7/1付で黒部事業所に適用するガイドライン新設

■ 第3条2項(1) 『交通の便が悪く』に関するガイドライン

・黒部市内の社有社宅・寮居住者には自家用車通勤の許可を行わない

■ 第3条3項 『特段の事情』に関するガイドライン

- ・交替勤務者
- ・短時間勤務者（育児・介護等）
- ・フレックス勤務者、時差勤務者
- ・バス運行時間外の出退勤が業務上必要な者

事業所方針として、公共交通利用への転換を促進

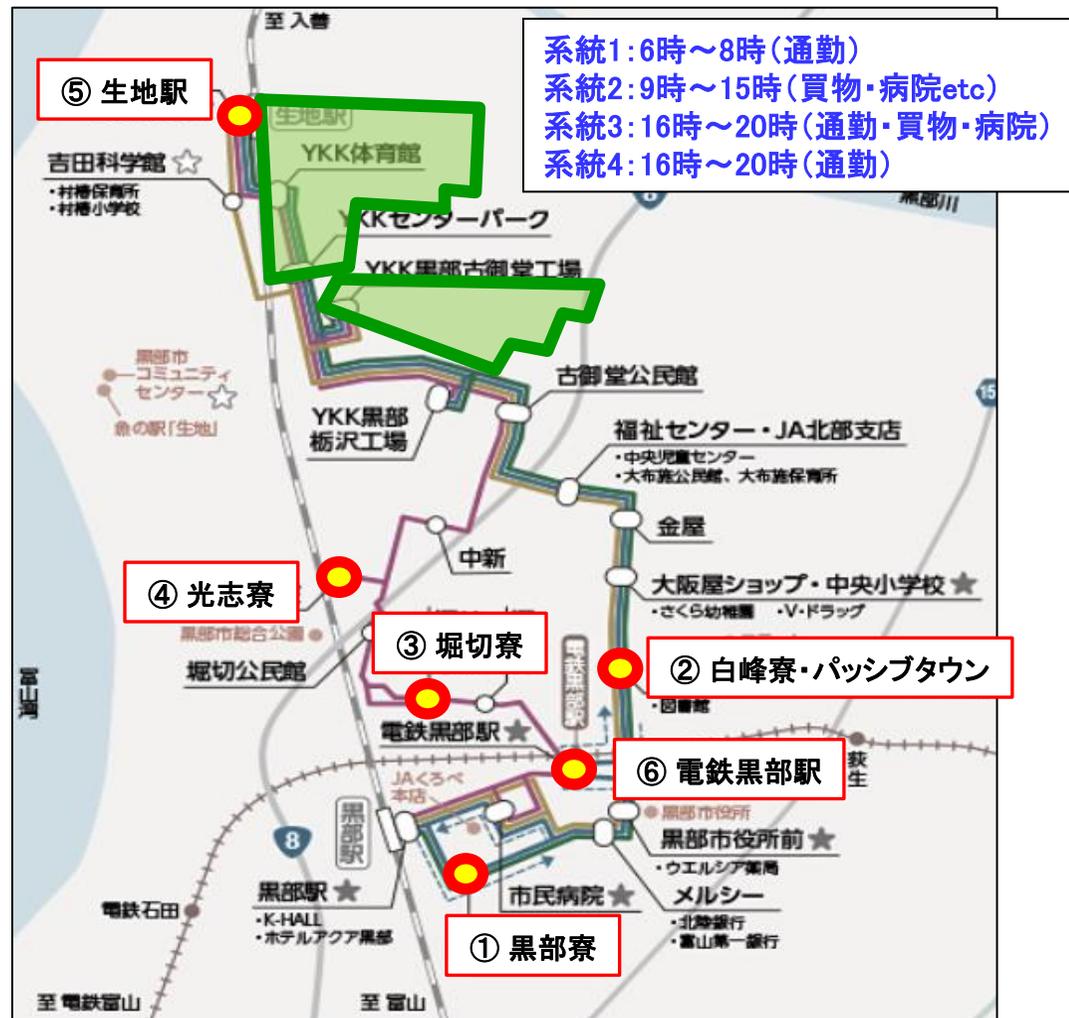
⑤ 運行頻度拡大と運行ルートの変更

■ バスの便数比較

	Before (2016.4月)	After (2020.12年)
社員専用バス	22便	9便
公共路線バス	0便	38便
計	22便	47便

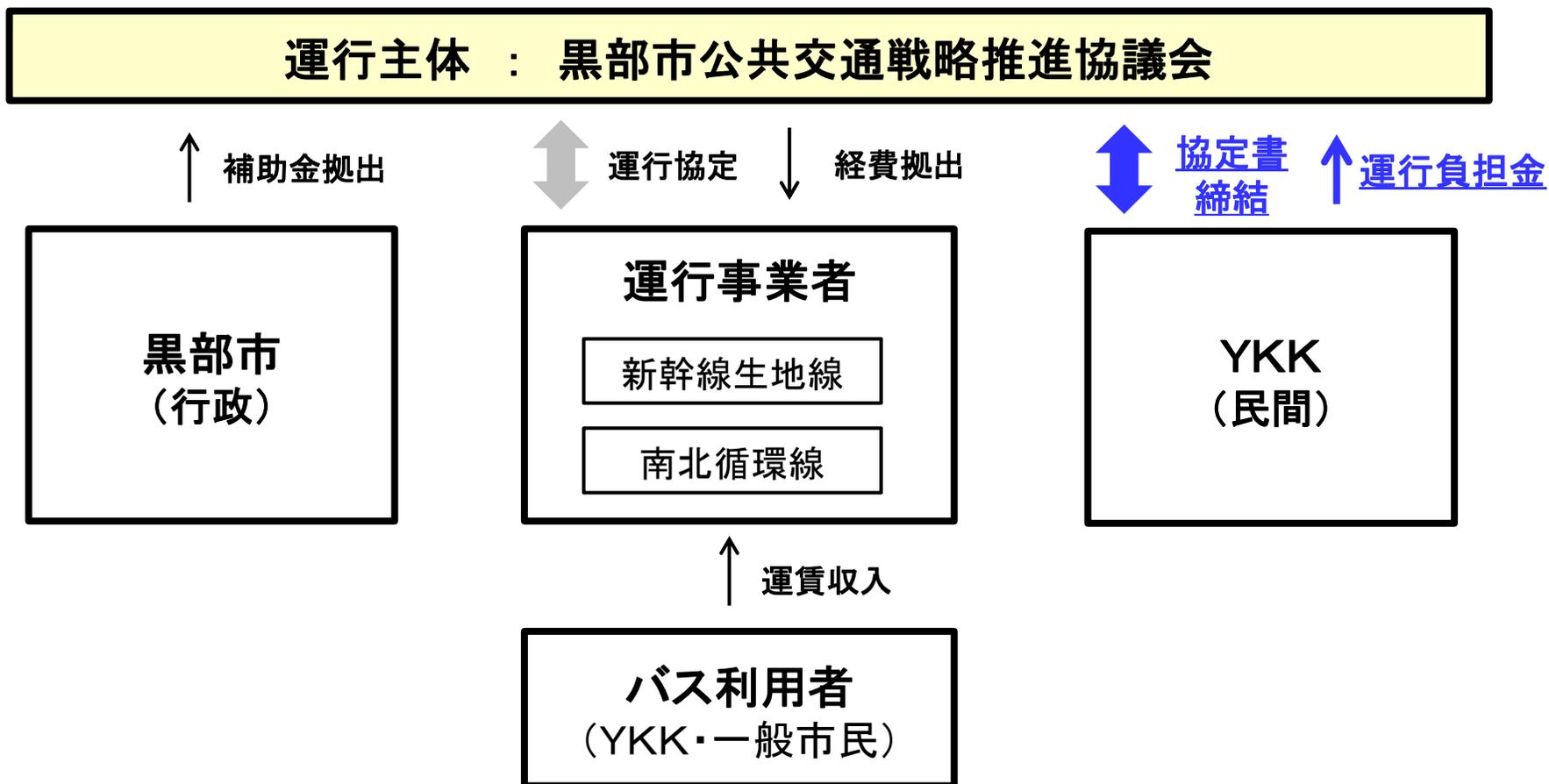
- ・運行頻度を約2倍にすることでバス利用時間の選択肢増
- ・「通勤需要」と「生活需要」を使い分け路線の公共活用化を促進

■ 南北循環線 運行系統図



⑦ 持続可能なバス路線を支える仕組みづくり

■ 新たな官民連携スキーム



路線経費は官民でシェアする事でバス路線維持を担保

2. 取組み効果

■ 乗車実績(延べ人数)



	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
南北循環線	—	19,635	84,625	100,034	97,236
社員	—	18,889	79,890	92,939	90,787
一般	—	746	4,735	7,095	6,449
新幹線生地線	6,706 <small>(社員専用路線で開始)</small>	14,193	26,886	31,938	30,912
社員	6,706	8,771	19,896	25,452	24,736
一般	—	5,422	6,990	6,486	6,176
社員専用バス	105,153	91,008	98,822	67,715	54,633
合計	111,859	124,836	210,333	199,687	182,781

公共路線の割合 0% 27% 53% 66% 70%

- ① バス交通の利用人数： 約 11 万人 → 約 18 万人
- ② 公共路線バス利用率： 0% → 70%

マイカーからバス通勤転換によるCO₂削減【229 t-CO₂/年】

3. 今後の取組予定

第1フェーズ

対象：黒部市内居住社員（社有社宅・寮）

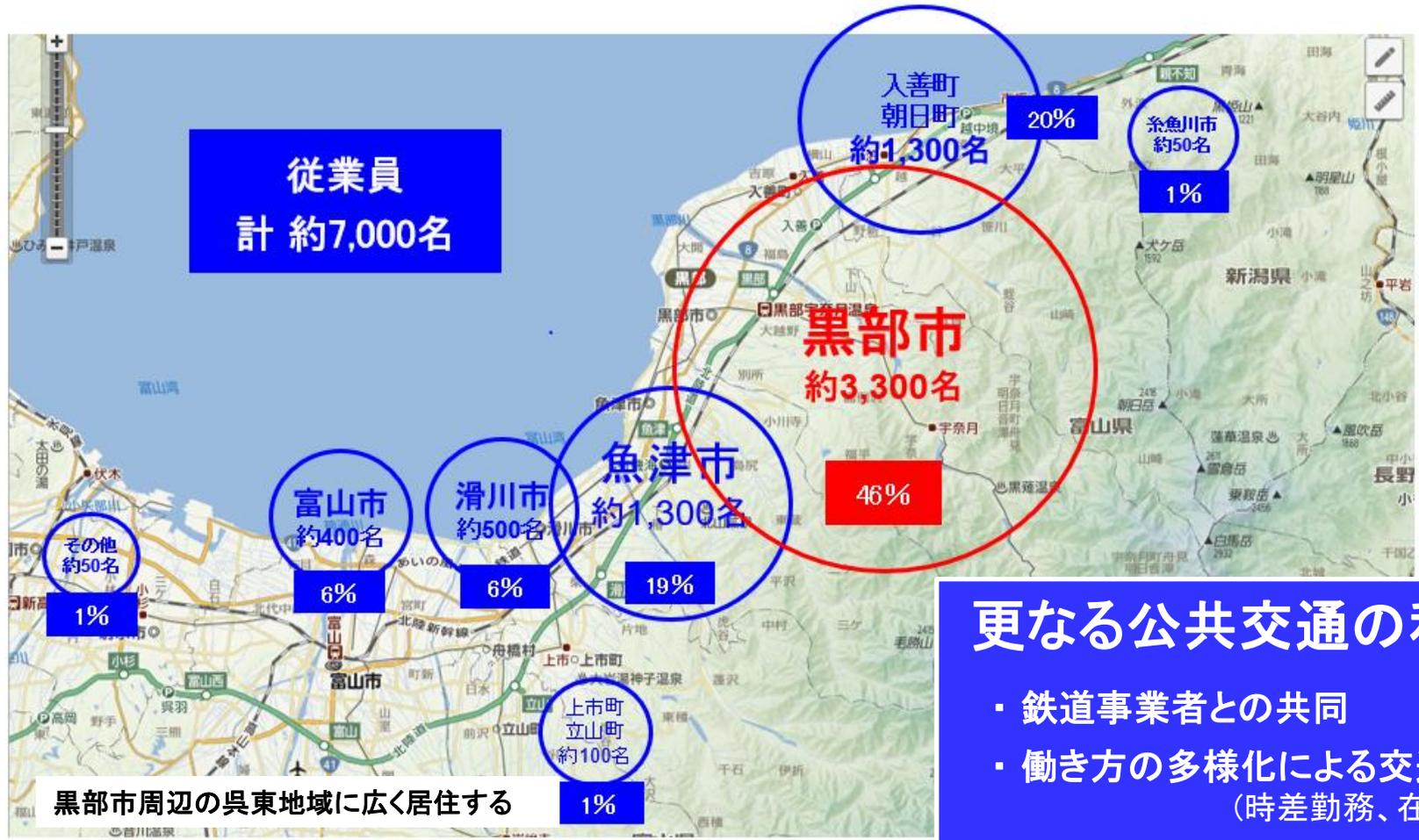
内容：マイカー⇒バス通勤へ



第2フェーズ（予定）

対象：黒部市外居住社員

内容：マイカー⇒鉄軌道通勤へ



更なる公共交通の利用促進

- ・ 鉄道事業者との共同
- ・ 働き方の多様化による交通ピークの分散
(時差勤務、在宅勤務等の拡充)